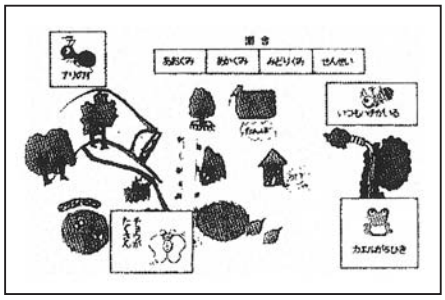
第 50 回　川崎市幼児教育研修大会
第４分科会　環境教育研究会
月　日　平成 22 年 1 月 20 日（水）
場　所　川崎市総合福祉センター
（エポックなかはら）
講　師　神田　浩行先生
（環境共育事務所Ｋ＆Ｋプランニング代表）
テーマ：「身近な自然を生かす」
－園庭マップを題材に－
俯瞰図番号　E4 － Ⅰ・Ⅱ

1　園庭マップの作成の仕方
・準備するもの
模造紙程度の大きな紙、油性ペンなど

・作成の仕方
①大きな紙に園庭の概略図をかく。
②園庭の自然を探すあそびを、子どもたちと行う。
③あそびを通して見つけた自然を地図にかきこむ。自然物の写真や実物を貼り付ける。
（例）



つながりたのしむあそび集 P17 参照

2　園庭マップ作成者の発表
（子どもの関わり方、作り方など）

①Ａ幼稚園
子どもたちと園庭探検をし、それを基にして、写真を貼り図鑑形式にした。
②Ｂ幼稚園
子どもたちと自然ビンゴを使用して、園庭宝さがしを行い、実際の葉や花をパウチして貼った。
③Ｃ幼稚園
春夏秋冬別に園庭のマップを作り、写真を貼った。
④Ｄ幼稚園
写真を貼り、図鑑形式にした。
⑤Ｅ幼稚園
園庭の簡略地図を保育者が描き、そこに子どもたちが木や葉の色を塗ったり、実際の葉を貼りつけた。

3　グループごとに以下の項目について話し合う
・自分の園でもできそうなこと
・やってみたいこと、おもしろそうなこと
・園庭マップの発表を見た感想

4　園庭マップを作成する意義
・子どもと自然が触れ合う機会を作る。
・豊かな自然に触れるための羅針盤
・子どもたちに伝えたいことを明確にすることができる。
・自然から伝えたいことがわかる。
↓
◦多様な自然があること
◦限りある自然であること
◦つながる自然があること

5　まとめ
・環境教育とは、「自然と人」の距離を縮めることである。自然への依存・自然への負担の意識をしっかりもつことである。
・幼稚園の環境教育のねらいとは、「人は自然の一部という意識を育む『はじめの一歩』」である。